備　前　市　事　務　事　業　評　価　シ　ー　ト

（平成25年度事業）

事業の概要

事業開始年度		昭和４６年度～	根拠法令・例規等		
総合計画	大項目 基本目標	05 生活環境政策「快適・活力」	問合先	担当課（室）	まち整備課
	中項目 基本施策	08 快適な生活が送れるまち		職・氏名	管理係長　瀬尾茂樹
	小項目 施策	34 道路環境の整備		電話	0869-64-1833
事務事業名		02 県道改良事業	このシート作成に要した時間		2.0 時間

Plan

事業の目的

対象（誰・何に対して）	県道利用者
目的（何のために）	県道の効率的・効果的な整備により、道路交通の円滑化や圏内の一体的発展及び安全で快適な通行の確保を図る。
事業の意図する成果（どのような状態にしたいのか）	県に要望し、県道事業整備を実現させる。

Do

事業の実績

目的を達成するため実施した事業

細事業名	事業の説明	優先度
道路改良県工事負担金	県が実施した工事にかかる市町村負担金	○
県道改良要望事業	県道整備の要望	○

事業費等		単位	平成23年度実績		平成24年度実績		平成25年度実績	
決算額 事業費	直接事業費	千円	13,851		29,554		27,454	
	必要人員人件費		0.29人	2,539	0.06人	516	0.06人	516
	事業費計		16,390		30,070		27,970	
財源	国県支出金	千円						
	受益者負担							
	繰入金							
	市債							
	その他（　）							
	一般財源		16,390		30,070		27,970	
受益者負担比率		%	－		－		－	

結果指標名		単位	平成23年度実績	平成24年度実績	平成25年度実績
県工事実施件数		説明			
結果指標	結果指標量	件	3	4	1
	対前年比	%	－	133.3%	25.0%
	活動コスト	円	16,390,000	30,070,000	27,970,000
	単位当たりコスト		5,463,333	7,517,500	27,970,000

事業の意図する成果とつながる成果指標を設定

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性を評価

事業費や受益者負担比率、単位当たりコストに留意しながら効率性を評価

事業の成果

成果指標名	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度目標値
要望実施箇所数	目標値（A）	30	24	29	5
	実績値（B）	3	4	1	到達目標値
	達成率（B/A）	10.00%	16.67%	3.45%	5

成果指標設定の考え方・式や説明

要望実施箇所数（B）/要望箇所数（A）

Check

事務事業の評価

該当する項目を□から■へ　＜ ■ ←「コピー」して「貼り付け」してください ＞

妥当性の評価	市の関与の妥当性	□ 市が実施するよう法令で義務づけられている ■ 法令で義務づけられてないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす □ 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない □ 事業の内容が一部の受益者に偏っている □ 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている ■ 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である ■ 事業開始当初の目的から変化してきている □ 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている	妥当性評価 A高い B やや高い C 普通 D やや低い E 低い B
	必要性	■ 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある	
	市民ニーズ	■ 市民・団体等から要望・要請が強い	
効率性の評価	コスト	□ 単位当たりコストは前年度と比較して改善している □ 実施方法（派遣・委託含）を見直すことでコストを下げる余地がある □ 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある ■ コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい	効率性評価 A高い B やや高い C 普通 D やや低い E 低い D
	手段	□ 受益者負担率は適正である □ 受益者負担率を見直す余地がある ■ サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない □ 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある □ 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている	
有効性の評価	目的達成度	□ 成果指標の設定は適切である ■ 成果指標の到達目標値は達成できそうである ■ 成果指標達成率は前年度と比較して向上している □ 成果指標達成率は80%未満となっている □ 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない	有効性評価 A高い B やや高い C 普通 D やや低い E 低い C
	市民参画度	■ 法定事務 ・ 内部管理事務　であり成果は求めにくい □ 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している □ 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している	

成果指標に留意しながら有効性を評価

進行年度（H26年度）の改革改善内容

状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
		○					

説明：県の財政状況からも実施については難しいが、引き続き要望していく。

総合評価

整備要望箇所については、局所的な要望に見直すなど改善をしながら取り組んでいる。

総合評価：A高い B やや高い C 普通 D やや低い E 低い　C

Action

平成27年度の方向性・取組目標

方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
		○					

取組目標：次年度も引き続き要望していく必要がある。